

お口のくち

健康情報室

食べることと話すことは口の大きな役割です。体の成長とともに育まれるこれらの機能が十分に発達していない状態を、「口腔機能発達不全症」といいます。

いつもぽかんと口を開けている、指しゃぶりや爪をかむ、姿勢が悪く猫背になる、頬づえをつく——こうした生活上の癖を早く見つけ、直すことで、正常に近づけることができます。

鼻炎で鼻が詰まると口で呼吸することが多くなるため、

生活の癖 歯にも影響

注意が必要です。口呼吸は鼻呼吸と違い、吸い込んだ空気が気管や肺に直接流れ込むため、風邪を引きやすくなります。慢性的に口内が乾燥するなど、口や歯にも悪影響があります。

食べ物をうまく咀嚼できずにのみ込んだり、食べづらさから偏食になったりすると、やせすぎや肥満の原因にもなります。お子さんの口腔機能の発達に心配がある場合は、かかりつけの歯科医院に相談することをおすすめします。



新型コロナウイルスの感染

拡大で通院を控える方が増えています。治療は先延ばしできるものと、継続して行う

のが望ましいものがあります。必要な治療を中断して痛みを我慢すると、症状を悪化させてしまうこともあります。歯科医院では様々な感染予防策を講じています。治療については受診している歯科医師に問い合わせてください。

(千葉県歯科医師会)



日本歯科医師会PRキャラクター
よ坊さん(千葉(当地版))